

News Release

2022年10月27日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
N I T E（ ナ イ ト ）
東 北 支 所

NO チェック, NO リユース！
～安全に使うための5つのチェックポイント～
（東北版資料）

1. 事故の発生状況

2017年度から2021年度までの5年間で、NITEに通知があった製品事故の情報^{※1}では、リユース品の事故は合計279件発生しており、そのうち東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）ではリユース品（中古品）^{※2}の事故は14件ありました。

被害状況は死亡1件、重傷2件、軽傷1件、拡大被害8件、製品破損2件となっております。

表1 リユース品による年度別事故発生件数

発生年 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2017年度	3	0	0	1	0	0	4
2018年度	0	1	0	0	0	2	3
2019年度	2	1	0	0	1	1	5
2020年度	0	1	0	0	0	0	1
2021年度	1	0	0	0	0	0	1
合 計	6	3	0	1	1	3	14

表2 リユース品による事故の被害状況別発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	0	0	0	0	1	1
重傷	1	1	0	0	0	0	2
軽傷	1	0	0	0	0	0	1
拡大被害	4	2	0	0	1	1	8
製品破損	0	0	0	1	0	1	2
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合 計	6	3	0	1	1	3	14

表3 リユース品による事故の原因区分別発生件数

発生県 原因区分		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	2	1	0	0	0	1	4
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C: 経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	2	1	0	0	0	0	3
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	1	0	0	1	0	0	2
	F: その他製品に起因しないもの	1	0	0	0	0	0	1
G1、G2: 原因不明のもの		0	1	0	0	1	2	4
H: 調査中のもの		0	0	0	0	0	0	0
合 計		6	3	0	1	1	3	14

表4 リユース品による事故の入手方法と製品別発生件数

発生県 入手方法/製品		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
譲渡	電気ストーブ	0	0	0	0	0	1	1
	石油ストーブ	0	0	0	0	0	1	1
	電気洗濯機	1	0	0	0	0	0	1
	浴槽用電気温水循環器	0	0	0	0	1	0	1
	エアーコンプレッサー	1	0	0	0	0	0	1
中古品販売店	パソコン	0	0	0	0	0	1	1
	電気ストーブ	1	0	0	0	0	0	1
	自転車	0	1	0	0	0	0	1
	空気清浄機	1	0	0	0	0	0	1
	石油ふろがま	0	1	0	0	0	0	1
	除雪機	0	0	0	1	0	0	1
インターネット	バッテリー・電池	1	0	0	0	0	0	1
フリーマーケット	パソコン	0	1	0	0	0	0	1
その他	除雪機	1	0	0	0	0	0	1
合 計		6	3	0	1	1	3	14

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含み、事故発生年月が不明なものを除きます。

(※2) 本資料では、中古品販売店で購入したもの、インターネットオークション及びインターネット通販で購入した中古品、譲渡されたもの、中古住宅などに既設で設置されていたものなどを「リユース品」(メーカー等の専門業者による分解・整備・清掃された製品を含む)と呼びます。

2. 主な事故事例

○ 2018 年 2 月 28 日 除雪機(青森県、40 歳代男性)

事故内容: 当該製品の排雪口に詰まった雪を取り除こうとしたところ、左手指を負傷した。

事故原因: 当該製品で除雪作業中、使用者が排雪口に詰まった雪を取り除く際、備付けの棒を使用せず手で雪を取り除こうとしたため、惰性で回転していた排雪口内の刃に指が接触し、負傷したものと推定される。なお、本体及び取扱説明書には、「排雪口内の雪を取り除くときは、エンジンを停止し、オーガとブロアの回転が完全に停止したことを確認してから、必ず備付けの雪かき棒を使用する。」旨、警告表示されている。

○ 2018 年 5 月 6 日 パソコン(福島県、年齢性別不明)

事故内容: 充電中のノートパソコンから火が出て、周辺を焼損した。

事故原因: バッテリーパックに使用している電池セルの製造上の不具合により、電池セルの封口部に導電性異物が付着したため、充放電を繰り返すうちに封口部の絶縁性が失われ、電池セルの内部が短絡して異常発熱し、出火に至ったものと推定される。

○ 2019 年 9 月 19 日 自転車(岩手県、50 歳代女性)

事故内容: 当該製品で走行中、ハンドルがロックし、転倒、負傷した。

事故原因: 当該製品は、ハンドルがロックされた状態で過大な力が加わると使用者に異常を知らせるためにハンドルロックのケースを意図的に破損させる設計であったが、ケースが破損すると内部のロックレバーの動きをガイドする溝が広がってロックレバーがカムから外れ、振動等でロックレバーが動いて意図せずロックが掛かる危険性に対して、技術的な保護対策が講じられていなかったため、ハンドルロックのケースが破損していた状態で走行した際に突然ハンドルがロックしたものと推定される。

○ 2019 年 11 月 24 日 電気ストーブ(青森県、年齢性別不明)

事故内容: 中古で購入した使用中のハロゲンヒーター付近から異臭がして出火し、フロアマットを焼損した。

事故原因: 内部配線とヒーター管端部のリード線との金属管スリーブ(鉄製)による接続がカシメ不良であったため、接触不良により異常発熱し、発煙・発火に至ったものと推定される。

3. リユース品使用時の5つのチェックポイント

- ☑ **リコール**対象でないか(製品がリコール対象製品ではないことを確認する。)
- ☑ **古い製品**でないか(製造時から長期間経過している製品かどうかを確認し、破損や変形、異常動作などの不具合がないかをチェックする。)
- ☑ **取扱説明書**はあるか(取扱説明書を入手し、付属品が揃っているか、正しく取り付けられているか、正常動作に影響する汚れがないか、消耗品の交換が必要かどうかなどを確認する。特に、ガス器具の取り外し・取り付けや電気工事は、有資格者、専門の事業者に依頼し、自分では行わない。)
- ☑ **改造**されていないか(消費者自らがメーカー等の信頼できる者以外により修理・改造された製品ではないか確認する。)
- ☑ **非純正品**の使用がないか(非純正バッテリーの取り付けの有無を確認し、機器メーカーで禁止されていないか確認する。)

4. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

【編集人のつぶやき】

最近、テレビのバラエティ番組などでもSDGsがよく取り上げられるなど、サステナブルな循環型社会の実現への関心が高まっていますよね。

資源の有効活用やゴミ削減の意識も向上し、リユース品の使用もますます増えていくと思います。

編集人も単身赴任などで生活様式に変化があったときなどに、中古品販売店を利用しますが、リユース品使用時の気をつけるべきポイントについては意識したことがないので、これからは、5つのチェックポイントを意識してリユース品を安全に使用していきたいです。

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所(略称:NITE) ナイト

責任者(支所長): 高橋 幹男

担当: 齋藤(さいとう)、福井(ふくい)、成田(なりた)

電話: 022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ



YouTube
公式チャンネル



Twitter
公式アカウント

